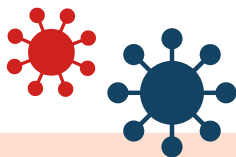




## HIVとエイズとは？

- HIV(ヒト免疫不全ウイルス)は、病原体から体を守る役割を持つヘルパーT細胞(白血球の一種)を攻撃するウイルスです。一度体内に入ると、完全に排除することはできません。
- エイズ(後天性免疫不全症候群)は、HIVに感染している状態が長期間続くことで、免疫機能が徐々に低下し、発症する病気です。



# 職場と HIV感染症/エイズ 正しい知識を身につけましょう

## HIVの感染経路は？

- HIVの主な感染経路は、性的接触、血液(輸血や針の共有)、母子間の感染の3つです。
- HIVは日常生活や仕事の場ではうつりません。

～主な感染経路～



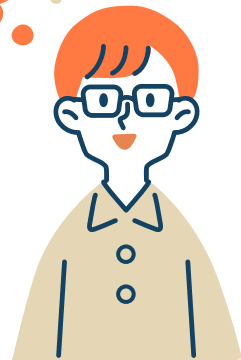
性的接触

血液感染

母子間

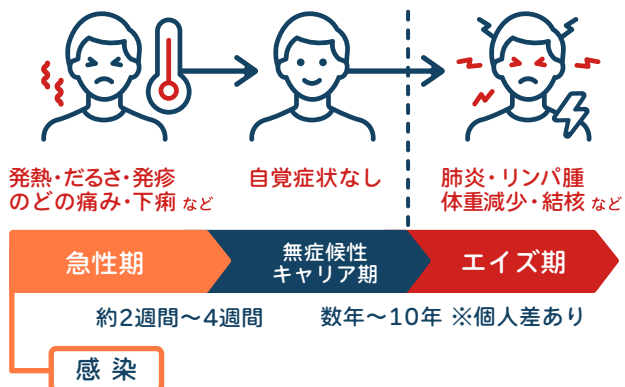
## 正しい知識を！

HIV感染症は「死の病」ではなく、適切な治療によりコントロール可能な慢性疾患です。多くのHIV陽性者が治療を続けながら健康を維持し、職場で活躍しています。誤解や思い込みは当事者を傷つけ、職場環境にも影響を与えます。正しい知識を身につけ理解を深めましょう。



本資料は令和6年度厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策政策研究事業)「職域におけるHIV感染症に関する知識の普及啓発の促進に向けた研究(研究代表者 横幕能行)」の助成を受けて実施した成果の一部です。

## HIVに感染してからエイズを発症するまでの流れ



## HIVの症状は？

急性期・無症候性キャリア期・エイズ期の3つの段階があります。

- 急性期：まず、感染後約2～4週間で、発熱、胸部の発疹、喉の痛み、倦怠感、下痢などの症状が現れることがありますが、通常は数日から数週間で自然に治まります。
- 無症候性キャリア期：急性期を過ぎると、次に症状が現れない無症候性の時期が数年から10年程度続きます。
- エイズ期：治療を受けずにいると、最終的にエイズを発症し、免疫機能が著しく低下します。その結果、健康な人では通常発症しないような病原体による感染症やがん、神経障害など、さまざまな病気にかかりやすくなります。

## HIVの検査を受ける時期は？

- 感染の可能性がある機会から3ヶ月以上経過してから検査を受けることが推奨されています。
- 保健所での検査では、約5mL（小さじ1杯程度）の採血でHIVの有無を確認します。



## HIVはどのように治療するの？

- 多剤併用療法が基本で、2種類以上の抗HIV薬を組み合わせ使用します。最近では、1日1錠の合剤や1～2ヶ月に1回の筋肉注射も選択肢として利用できます。
- 治療を一度始めたら服薬を継続することが大切です。途中で中断すると薬が効かなくなる可能性があります。
- 治療を続けることで仕事を含む通常の生活を送ることが可能です。ただし、HIVを完全に排除することはできないため、約3ヶ月に1回の定期診察で治療状況を確認します。



## HIV関連の支援制度はあるの？

- 身体障害者手帳：HIV陽性者は、免疫機能障害として身体障害者手帳を申請でき、医療費助成や所得税の控除などの支援を受けることが可能です。医療費助成によって、医療費の自己負担は月額0～2万円に軽減されます。



## POINT

### 職場で「私、HIVなんです」と告げられたら？

- 信頼して話してくれたことを尊重し、その情報を本人の許可なく他者に伝えないことが極めて重要です。HIV陽性であることを理由にした差別は、人権を侵害する重大な問題であり、職場としてそのような状況を防ぐ責任があります。
- HIV陽性者を特別視するのではなく、職場の仲間として尊重し、誰もが安心して働ける環境を整えることが大切です。

### U=Uとは何ですか？

- 国際エイズ学会やアメリカ疾病予防管理センターでも広く提言されている、「抗HIV治療でHIVウイルス量の検出限界未満(Undetectable)が最低6ヶ月以上続いている人は、コンドームなしで性行為をしても一切、HIV感染をさせない(Undetectable)」という科学的根拠に基づいた概念です。HIVに関する差別や偏見をなくすために必要な知識です。